

豪雪地帯のオオシラビソの天然林

立山オオシラビソ 希少個体群保護林

設定目的

日本有数の豪雪地である立山^{たてやま}弥陀ヶ原^{みだかがはら}には、針葉樹の中でも積雪の多い山になるほど優勢となるオオシラビソ（アオモリトドマツ）がまとまって生育しています。豪雪地における特徴的な天然林として、当該個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、富山県の常願寺川^{じょうがんじがわ}源流域にある弥陀ヶ原周辺の北々西向き斜面に位置しています。日本海側気候の影響を強く受け、冬季には四日以上以上の積雪がみられます。

植生については、オオシラビソが高木層の優占種となっていますが、風衝面や雪の影響を大きく受ける箇所では矮小化し疎林状となり、ダケカンバやコマツガ等が生育しています。

所在地
富山県 中新川郡 立山町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612